



第117回

ガザ地区の民間人死者

※2025年10月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

2年間に及ぶパレスチナ自治区ガザ地区の戦闘では、国際人道法の疑いが濃厚な事例が相次いでいている。ガザはどれだけ破壊されたのか。公表されたデータを基に探ると、国際法が軽視されている現状が浮かび上がった。

イスラエル軍のハレビ参謀総長（当時）は1月21日、約2万人の戦闘員を殺害したと主張した。ガザの死者数はこの時点では約4万7000人で、民間人の割合は57%となる計算だ。しかし、死者の6割強は女性と子供であり、仮に成人男性が全員戦闘員だったとしても、イスラエル軍の主張する戦闘員の死者数には約3000人足りない。

イスラエル軍は毎日新聞の取材

に対し、「ガザの保健当局は自然死など紛争と無関係の死者も記録している」と主張。ネタニヤフ大統領も9月の国連総会の演説で、死者に占める民間人と戦闘員の比率は「2対1以下」だと述べたが、いずれも根拠は示していない。ガザ当局の数字は国連機関などからほぼ正確だと指摘されている。

一方、英誌ガーディアンなどは8月下旬、イスラエル軍の機密リストを基に、死者の83%が民間人だったと報じた。このリストにはイスラム組織ハマスなどの戦闘員4万7563人の名前が記され、5月時点で「死亡」もしくは「おそらく死亡」とされていたのは8900人にすぎなかった。当時のガザ側の死者に占める戦闘員の割

合は17%にとどまる。

事実であれば、イスラエル軍による攻撃は近年の「対テロ戦争」と比べても、民間人が犠牲となる割合が突出していることになる。

米ブラウン大の「戦争のコスト」プロジェクトによると、アフガニスタン戦争（2001～21年）では、米兵や武装勢力も含め約17万6000人が死亡したが、このうち民間人は約4万6000人（約26%）だった。03年3月に始まったイラク戦争では、21年8月に死亡した推計27万5000～30万6000人のうち、民間人は7割弱を占める。ただし、アフガンやイラクの民間人死者には、武装勢力によるテロの犠牲者も含まれる。一方、ガサの死者は大半がイスラエル軍の攻撃によるものとみられる。

国際人道法では、戦闘員と民間人を区別し、民間人の生命や財産を保護する義務がある。これを「区別の原則」と呼ぶ。イスラエル軍は、攻撃の事前警告などを通じて

「民間人の被害権限に全力を尽くしている」と主張するが、ガサの戦闘開始後は、地位の低い戦闘員1人を殺害するために15～20人の民間人の犠牲を容認するようになったとの報道もある。

「巻き沿いで亡くなるガザの人に対して、無頓着すぎた」

イスラエル軍の元予備約の男性は取材にこう明かした。23年10月のハマスによる越境攻撃では、ガザの一部住民もイスラエル側になだれ込んだ。このため「ガザに無実の人はいない」と考える兵士も少なくないという。こうした認識が民間人の被害拡大に影響した可能性もある。